

東北大学災害科学国際研究所 調査報告

令和2年7月27-28日の豪雨による
山形県の被害まとめ
～水害関係～

調査実施日
2020年8月4日

調査メンバー
橋本雅和（災害リスク研究部門）
森口周二（地域・都市再生研究部門）
佐藤翔輔（人間・社会対応研究部門）

調査協力: 山形県自主防災アドバイザー 細谷真紀子氏

水害調査概要

報道されていた最上川氾濫地点を中心に調査を実施.

- ✓ 大江町左沢地区
- ✓ 中山町
- ✓ 大石田町今宿地区・横沢地区
- ✓ 大蔵村
- ✓ 村山市
- ✓ 東根市

浸水域が最も広がったのは村山市+東根市で、こちらは支川（大旦川+白水川）からの越水+決壊が要因であった。

中山町（内水氾濫）を除いて、その他の地域では最上川本川の越水を確認。大石田町は本川と支川の両方の越水が確認され、今宿地区は支川の五十沢川による浸水であることが確認された。



大江町左沢



湾曲部の外岸側での本川の越水



川沿いの地域が浸水。
元々船着場であったこともあり、
周辺より土地が低くなっている。

大石田町今宿地区



住民の情報によると、最上川（本川）と臈気川（支川）からの越水は無し。五十沢川の上流側からの越水によって浸水した。



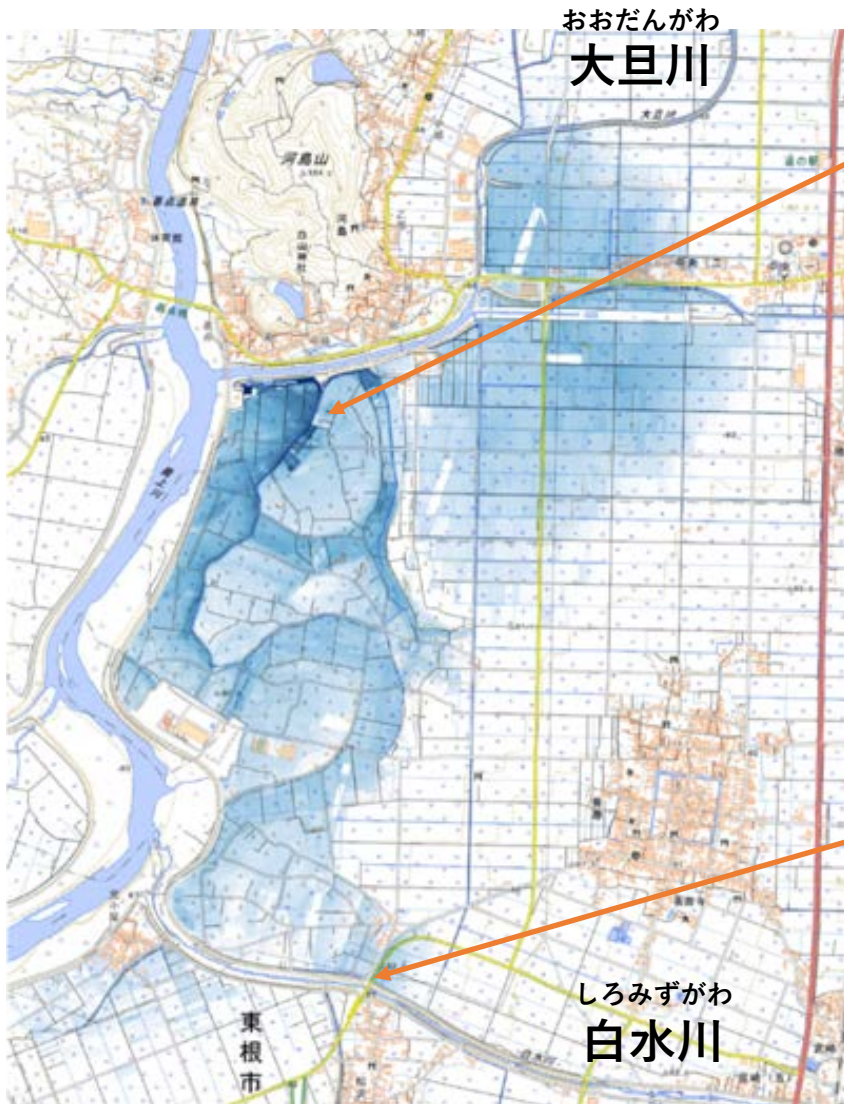
五十沢川（線路より東側の無堤区間）の様子。河道内に樹木の繁茂を確認。この区間から北側の水田側に越水したと推察される。

大石田町横山地区



橋桁と橋周辺に浮遊してきたと推察される生活ゴミ等（主にペットボトルと小枝）を確認。土嚢の隙間から氾濫水が漏れ出していた（住民による情報）。

村山市・東根市



水門を閉じて排水機場のポンプで最上川へ排水していたが、容量を超えて越水。浸水常習地域。

浸水域南側は支川の白水川の決壊によって浸水。決壊地点の対岸も越水しており、裏法面に侵食が見られた

